

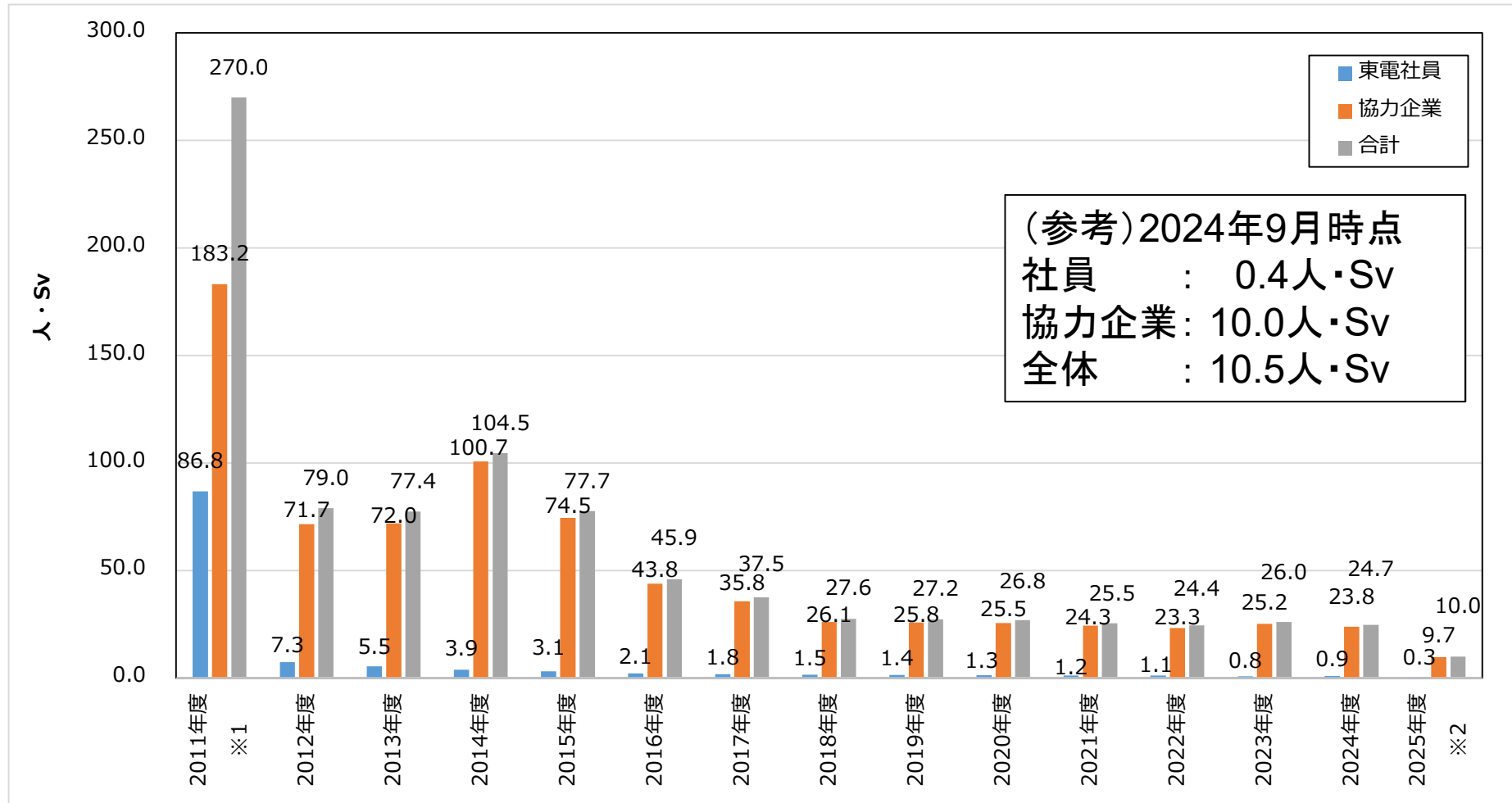
福島第一原子力発電所 従事者の被ばく線量全体概況について

2025年11月18日

東京電力ホールディングス株式会社

①発災以降の年度別外部被ばく線量の低減状況（総実効線量）

■ 前年度同時期と比較して同程度になっている。

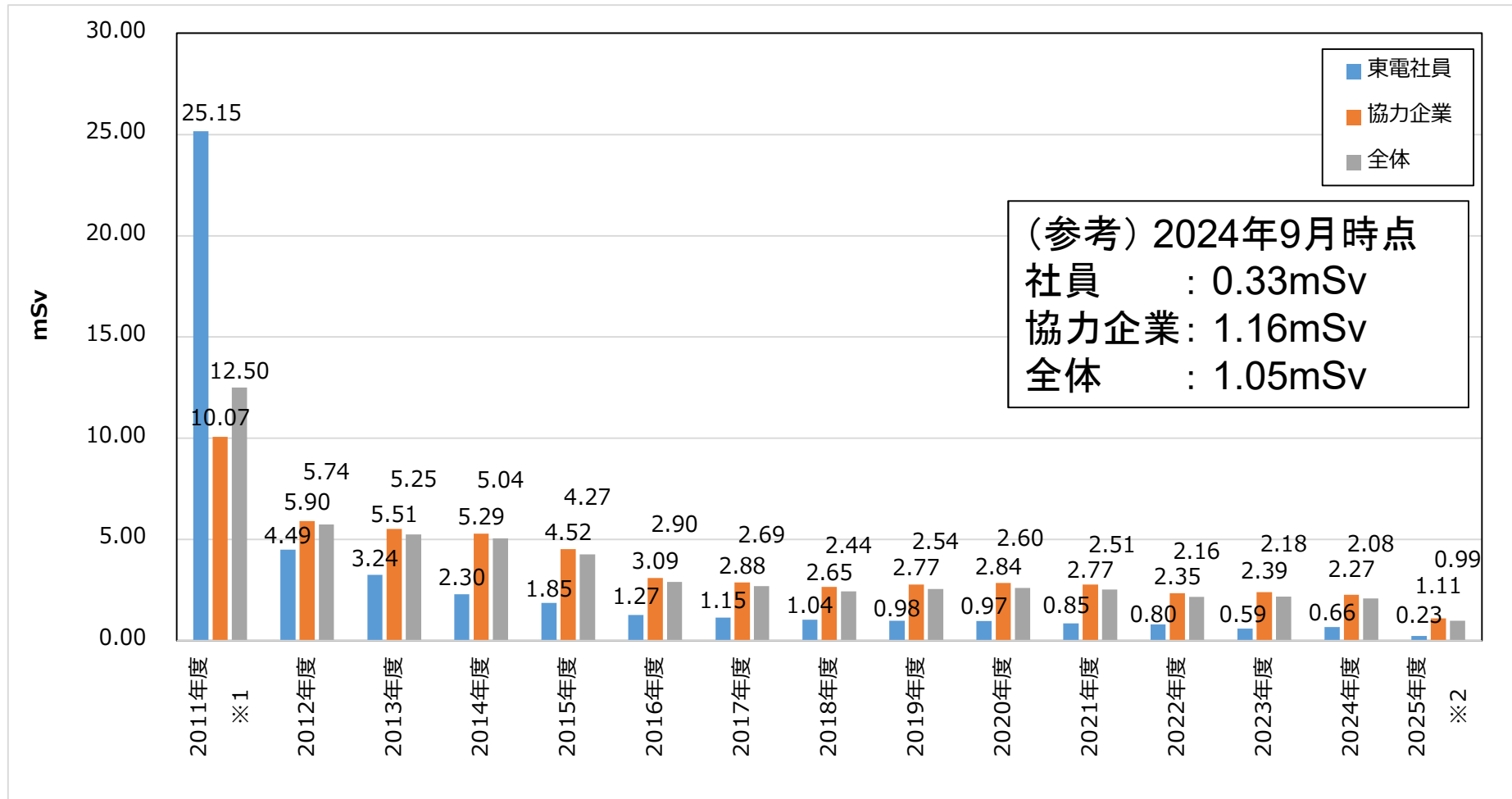


※1：2011年度は2011年3月を含む

※2：2025年度の9月分は暫定値（APD値）である

②発災以降の年度別外部被ばく線量の低減状況（平均線量）

■ 前年度同時期と比較して同程度になっている。

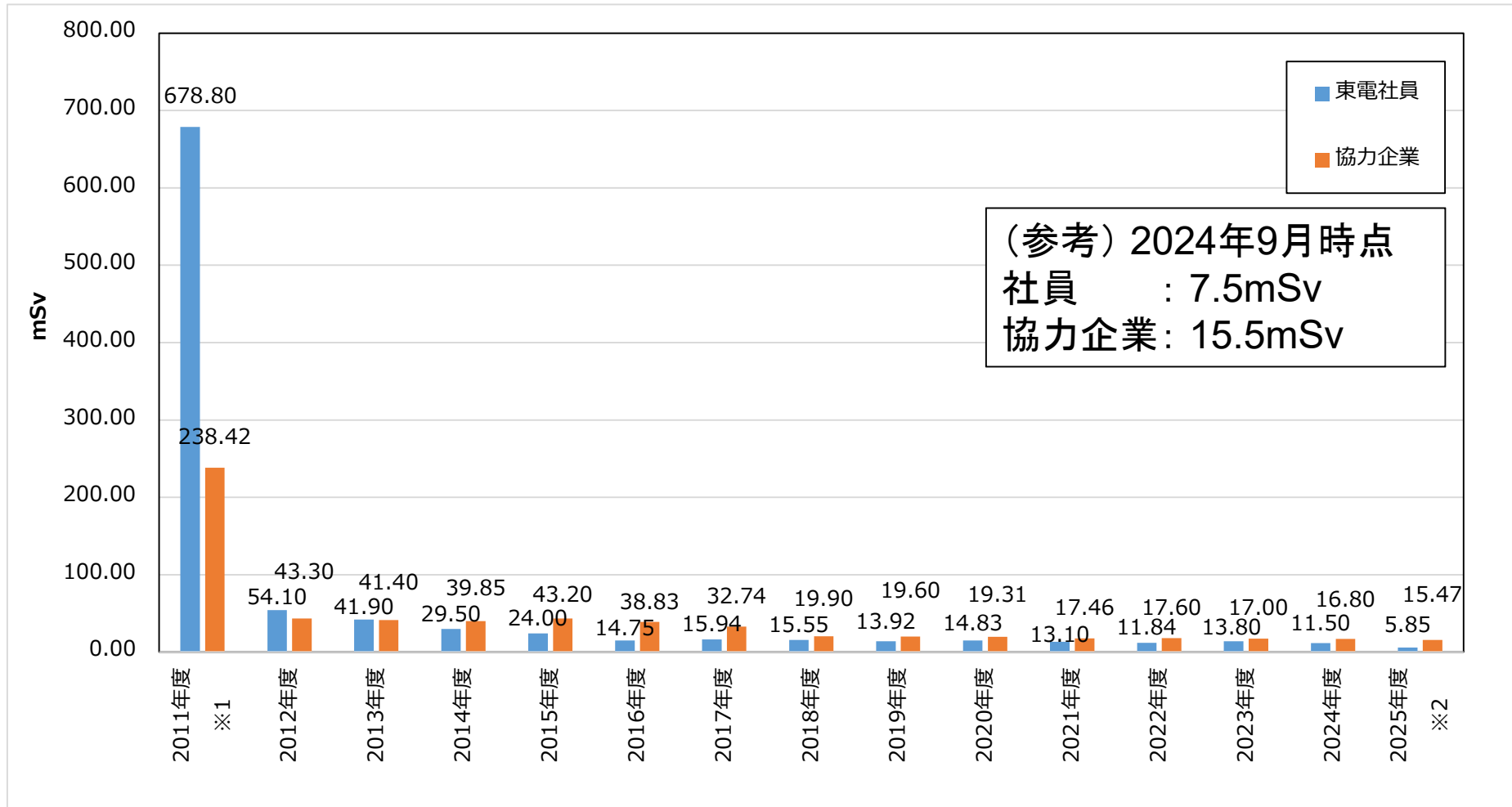


※1：2011年度は2011年3月を含む

※2：2025年度の9月分は暫定値（APD値）である

③発災以降の年度別外部被ばく線量の低減状況（最大線量）

■ 前年度同時期と比較して同程度になっている。

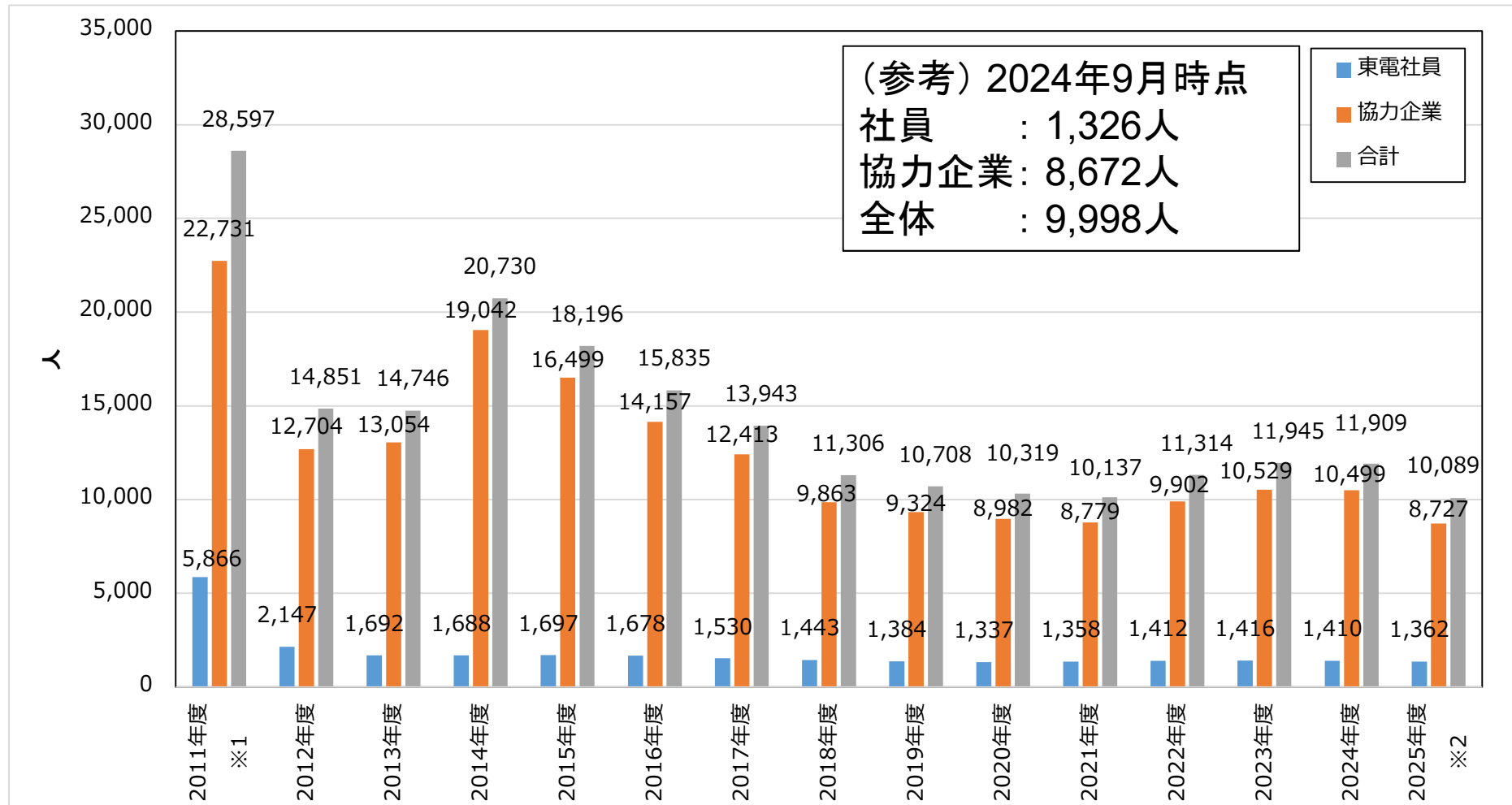


※1：2011年度は2011年3月を含む

※2：2025年度の9月分は暫定値（APD値）である

④発災以降の年度別放射線業務従事者数

■ 前年度同時期と比較して同程度となっている。



※1 : 2011年度は2011年3月を含む

※2 : 2025年度の9月分は暫定値 (APD値) である

⑤放射線業務従事者の累積外部被ばく線量 2025年度

区分(mSv)	2025.4月～2025.9月		
	東電社員	協力企業	計
100超え	0	0	0
75超え～100以下	0	0	0
50超え～75以下	0	0	0
20超え～50以下	0	0	0
10超え～20以下	0	176	176
5超え～10以下	2	436	438
1超え～5以下	96	1,423	1,519
1以下	1,264	6,692	7,956
計	1,362	8,727	10,089
最大(mSv)	5.85	15.47	15.47
平均(mSv)	0.23	1.11	0.99

○2025年度（2025.4月～2025.9月）に
作業実績のある10,089人のうち

10,089人（100%）は50mSv以下

10,089人（100%）は20mSv以下

9,475人（93.9%）は5mSv以下

○全ての作業者について被ばく線量は、
50mSv/年および100mSv/5年の
線量限度を超えないよう、20mSv/年を
上限値として管理をしている。

○2011.10月以降、有意な内部取り込みは
認められていない。

※ 2025年度の9月分は暫定値（APD値）である

⑥2021年4月1日を始期とする5年間の累積外部被ばく線量

区分(mSv)	2021.4月～2025.9月		
	東電社員	協力企業	計
100超え	0	0	0
75超え～100以下	0	1	1
50超え～75以下	0	165	165
20超え～50以下	39	1,531	1,570
10超え～20以下	79	2,002	2,081
5超え～10以下	149	1,833	1,982
1超え～5以下	383	2,977	3,360
1以下	1,417	9,676	11,093
計	2,067	18,185	20,252
最大(mSv)	39.52	75.33	75.33
平均(mSv)	2.12	5.84	5.46

○2021.4～2025.9に作業実績のある20,252人のうち

20,252人 (100%) は100mSv以下

20,086人 (99.2%) は50mSv以下

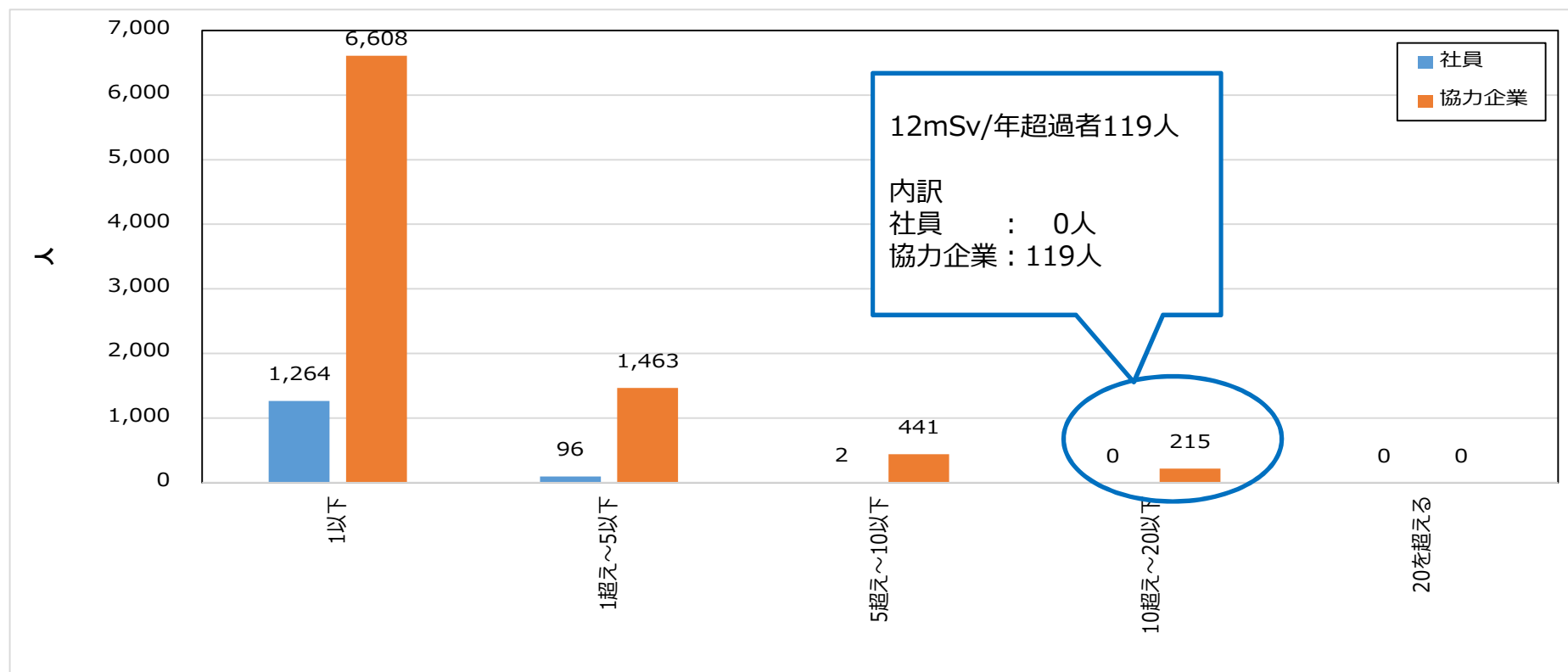
18,516人 (91.4%) は20mSv以下

○全ての作業者の被ばく線量については、
100mSv/5年の線量限度を超えないよう、
80mSv/5年を上限値として管理をしている。

※ 2025年度の9月分は暫定値（APD値）である

⑦眼の水晶体 累積等価線量分布（2025年度）

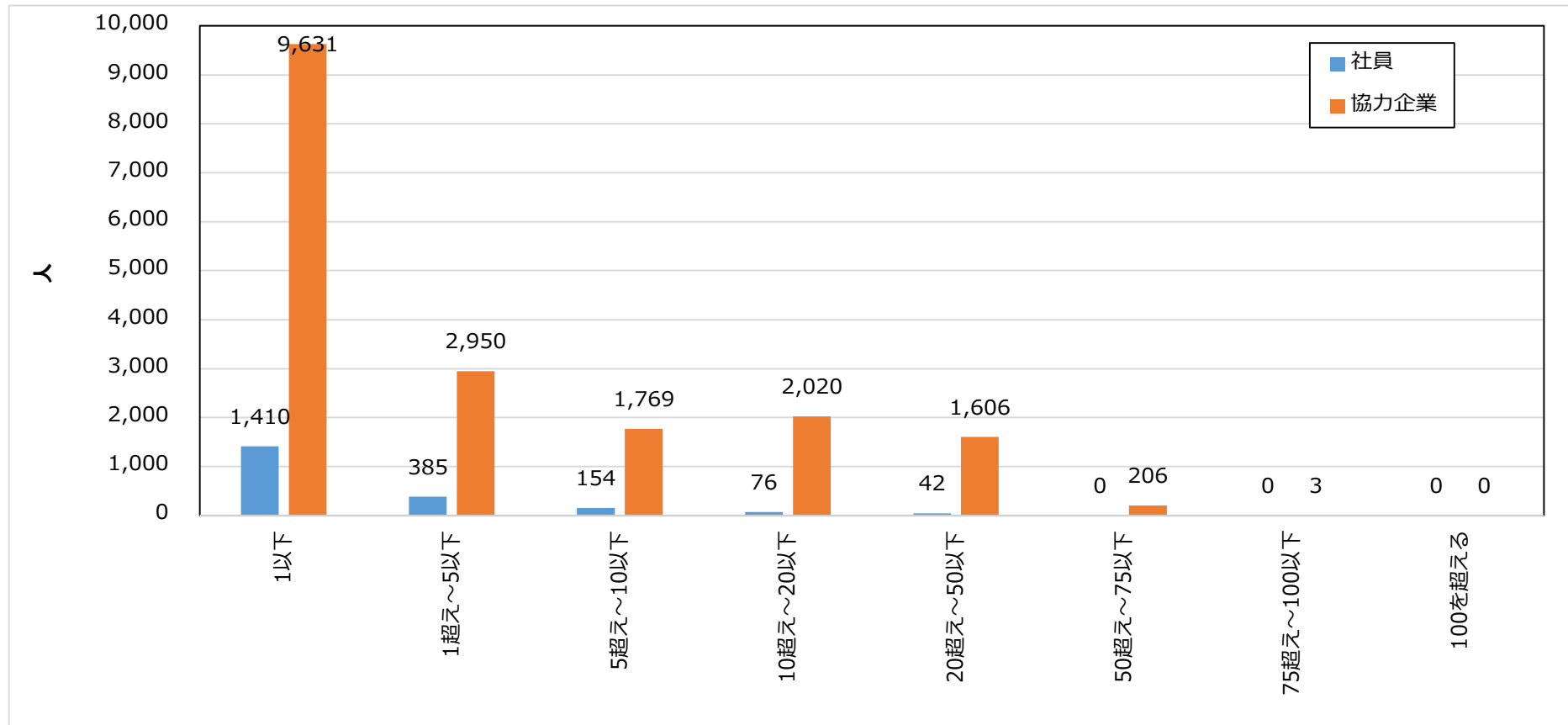
- 2025年9月分までの眼の水晶体の最大線量は、16.92mSv。
- 全ての作業者について眼の水晶体の等価線量は、線量限度内(50mSv/年)で管理。
- 眼の水晶体の等価線量が12mSv/年を超える作業を計画した段階、または超えたことが確認された段階で、眼の水晶体の等価線量測定（眼の水晶体近傍（又は頭頸部））を開始している。



※ 2025年度の9月分は暫定値（APD値）である

⑧2021年4月1日を始期とする眼の水晶体5年間の累積等価線量分布

- 2021年4月1日を始期とする眼の水晶体5年間累積等価線量の最大線量は、76.95mSv。
- 全ての作業者の眼の水晶体の等価線量については、100mSv/5年の線量限度を超えないよう、発電所では80mSv/5年の管理をしている。

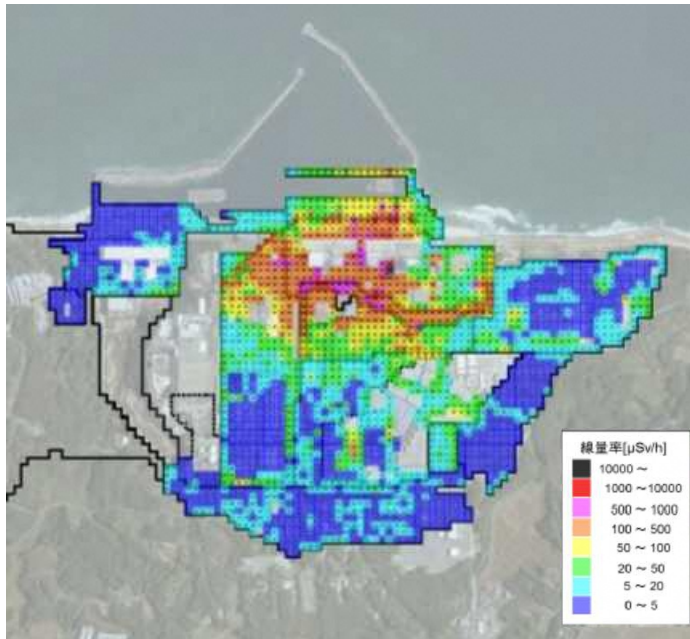


※ 2025年度の9月分は暫定値（A P D値）である

⑨環境線量率の低下

- 構内の環境改善によって、構内全域にわたって環境線量率が低下している。
2025年度時点で、構内の約96%が全面マスク着用を不要とするエリアとなっている。

2014年度



※ 空白部分は未測定エリア

2025年度

